

令和4年度秋田県放課後児童支援員認定資格研修 研修レポート抜粋

(誤字脱字等については校正しているため、原文と異なる場合があります)

県央会場

科目 ⑨子どもの遊びの理解と支援

- ◆ 子どもは遊びの中で様々なことを学び、遊びは学習意欲にも関わってくることを学びました。援助にも様々な方法がありますが、大人が引っ張っていくのではなく、一緒に歩み、共感し、認めていくことが大切であると理解できたので、今後役立てていきたいと思いました。「子どもを人間として見る」という言葉を心に留めて、子どもを理解し、今回学んだ柔軟な援助を実行していきたいと思います。
- ◆ 遊びは子どもの発達に深く関わっていることを学びました。遊びの環境を整えてあげることの重要性を理解できました。私は子どもの気持ちに寄り添うことを意識して行動することを心がけていたつもりでしたが、支援者という立場を意識すると、大人の基準で考えてしまいがちだったかもしれないと思いました。援助のあり方について難しさを感じることもありますが、子どもの心に気付き、一緒になって良さを育てていけるようにしたいと思いました。
- ◆ 子どもの日々の生活や遊びの中では、成功体験だけではなく、失敗体験をすることも成長につながる大切な経験であることを学びましたが、私たち大人が「危ない」等の理由で、せつかくの成長の機会をストップさせる言動をとってしまいがちであると考えられました。様々な言動の中で結果ばかり求めるのではなく、そこまでの過程や子どもが頑張っている姿を認めることが大切であり、大人も一緒に成長できる支援を続けていきたいと思いました。
- ◆ 核家族化、少子化、ネットの普及などの環境の変化が現代の子どもたちの遊びに影響してきていることや体力の低下、生活リズムのかく乱、免疫系の異常など健康面においても異変が起きていることを学びました。そのため、学童保育の場で子どもたちが主体的に遊び、成功や失敗の経験を積み重ねながら成長していけるように、私たち児童支援員が適切に援助することが重要だと思いました。
- ◆ 子どもにとって「遊び=学び」であり、遊びは自発的・主体的に行われるものです。成功体験、失敗体験をしながら、他者の心の捉え方に自分自身が気付いていくためにも、非認知能力も含め、支援員が遊びの環境を保障しながら、一人一人に寄り添った丁寧な援助を行うことが大切であると思いました。「子どもを人間として見る」という言葉が心に残りましたが、放課後児童クラブで出会う子どもたちの尊厳を大事にしながらかかわっていきたいです。